

KnTU Technical Official Report



パラ・バイク競技風景

第33回 NISSAN CUP 神奈川トライアスロン大会

パラ選手も楽しむ大会が普通の光景となるように エイジ審判長 松村 一彦



エイジ・スイム待機風景

当日の準備段階では雨がばらつき、風も強く海上は波がうねる状況でした。これ以上悪くならないことを祈りながら準備を進めました。結果的には天気は一日大きく崩れることなく、大きな事故もなく大会を終えることができました。参加した選手のみならず、スタッフの方々に感謝します。

さて、今回の大会では、決して良いとは言えないコンディションの中で、いかに事故を未然に防ぎ、選手のみならず楽しんでいただけるかを考え、各 TO (Technical Official テクニカルオフィシャル / 審判員) がコースの設営とレースの運営にあたりました。以下に各パートにおける TO の対応を記します。

1. スイム：スプリント、一般とも距離を半分にしました。うねりが大きく、かなり苦勞していた選手も多いように見受けられました。直前の距離変更で戸惑った選手も多かったと思いますが、リタイアする選手も少なく、多くの選手が完泳できました。

2. バイク：路面の濡れによるスリップが懸念され、ポイントとなる2箇所を重点的に注意してコース設営を行いました。1) バイクスタートと周回の合流地点：周回のバイクが大きく膨らみ、スタート間もない不安定なバイクに突っ込む危険がある箇所です。今回は、周回のバイクの進路を絞り込み、大きく膨らまないような設営を行いました。2) 自動車テストコース入口前の陸橋：行きは急な下りカーブでの転倒、帰りはカーブ後の急な登りでのふらつき、という危険がある箇所です。今回は競技説明会でも触れ、TO を橋上に配置して注意を喚起しました。その結果、大きな転倒や接触事故は起きませんでした。

3. ラン：例年、熱中症が危惧されますが、今年は気温が高くなく、その心配はありませんでした。制限時間でカットオフすることはありませんでした。

4. トランジション：エイジのスイム距離変更により、エリートのバイクフィニッシュとエイジのバイクスタートのタイミングが重なり、交錯の危険が生じました。距離変更時のタイムテーブルの見直しに課題が残りました。

5. フィニッシュ：リカバリーエリアへ選手が順次流れるような導線を作りました。

天候の影響に対して、コース設営面ではうまく対応できたと思います。競技内容やタイムテーブルの変更には改善すべき点が見受けられました。次回以降課題とします。それでも多くの選手がフィニッシュでき、たいへんうれしく思います。何よりも、競技説明に熱心に耳を傾け、コースコンディションに対してしっかりと向き合った選手のみならずのおかげです。最後に、今回パラアスリート2名が参加しましたが、スイムフィニッシュとバイク陸橋付近の事前確認を行い、他の選手といっしょにレースを楽しんでいただきました。本大会にとって今後につながることだったと思います。

.....